

# 変える議会、 変わる議会

—改革はどこまで進んだか

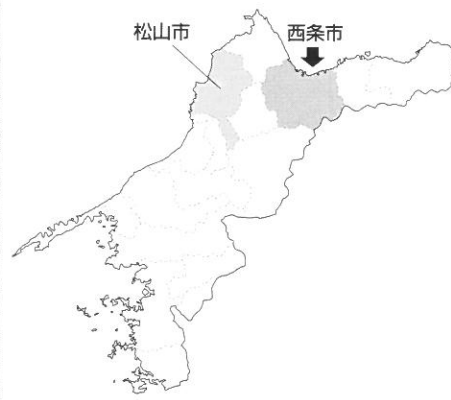
## 議会基本条例制定を転機に 短期間で躍進

愛媛県西条市議会



ひとら だけし  
人羅 格  
毎日新聞論説委員

愛媛県西条市



議会 DATA

- ※令和3年4月1日現在
- 1. 議員定数：28人
- 2. 女性議員率：17.9%
- 3. 平均年齢：60.8歳
- 4. 議会基本条例：有

今回と次回では、四国地方にある、ふたつの地方議会を取り上げたい。

愛媛県西条市議会と、徳島県那賀町議会だ。いずれも、四国で地方議会のあり方を変えていこうと地道な努力を続け、成果をあげている。近年では、各種の議会改革度ランキングにおいても、改革の進捗が顕著に反映されている。

まず、西条市議会を中心に、今号では紹介する。

### ■614位が3年後に30位に

10月19日、西条市議会の議場に中学生の歌声が響いた。

混声の「溢れひたす闇に」など、伸びやかな声を披露したのは、地元、西条北中学校の生徒たちだ。同校は全日本合唱

コンクールで全国大会への出場が晴れて決まったが、「コロナ禍」でなかなか市民に聞いてもらう機会がないことから、議会が議場コンサート開催を提案した（左写真参照）。その模様は、ネットで視聴することができる。

西条市は、北は瀬戸内海に面し、南は石鎚山を擁する人口約10万人の都市。2004年に2市2町が合併した。「だんじり」を担ぐ西条祭りや、「うちぬき」と呼ばれる地下水で知られる。

その西条市議会は近年、全国の地方議会の注目を浴びている。早大マニフェスト研究所の議会改革ランキングで同市議会は2017年に614位だった。それが、338位（18年）、162位（19年）、30位（20年）と3年程度で、まさに右肩

改革の担当だった。楠さん自身、西条市議会がそれほど「遅れた議会」だという印象は持っていなかった。議会が積極的に政策を提起する「政策提言会」などの活動に取り組んできたためだ。

だが、あるメディアの議会改革度ランキングで西条市議会はかなり下位に沈んでいた。「議会基本条例を制定して、体系的な改革に取り組む必要があるのではないか」。そう感じた楠さんは議会改革が専門の廣瀬克哉・法政大教授（現総長）と連絡を取り条例制定について相談、同大との連携を始めた。

その当時、議員の任期が満了する2017年春までの条例制定を楠さんは念頭に置いていた。時には議員が上京して廣瀬さんと相談するなどの調整を重ね、16年秋の基本条例制定にこぎつけた。

### ■議員間討議で着実に成果

基本条例には積極的に政策提言を行う「政策提言会」の開催や、市長と協力して危機管理体制の強化に取り組むことなどを盛り込んだ。他自治体の議会、議員との積極交流など、西条市議会の独自性を反映させた。

議会の改革サイクルはそれからさつそく回り出す。基本条例を制定した「達成感」で歩みを止めてしまう地方議会もある中で、西条は「一問一答」方式の導入を皮切りに着実に変わっていった。改革の優先度を決め、「短期」と認定したもののからどんどんこなしていったためだ。

議場中継や録画などの動画配信や、政務活動費の収支報告などのネットを活用しての情報公開の推進を実現した。また、議会活性化推進特別委員会の場を活用して議員間討議を進め、定数の2人削減を実施した。

コロナ禍に際しても柔軟対応に努めている。タブレット端末を活用し、今年か

上りの上昇を遂げた。着実に政策提言や議員間討議などを進めた実績が認められ、今年、同研究所の「マニフェスト大賞」最優秀躍進賞を受賞した。

四国では、先述したように徳島県那賀町も議会改革を進め、今年のランクが26位に上昇した。四国の議会が30位以上となったのは、今年的那賀町、西条市が初めてである。

そんな西条市議会が「変わる」きっかけとなった跳躍台は、2016年9月、議会基本条例を制定し、翌年2月に施行したことだった。

そのいきさつを、楠学議員（72）に聞いた。楠さんは6期目、会派は「西条自民クラブ」に所属している。

6年前の2015年秋、楠さんは議会で「議会運営の完全ペーパーレス化を実施している。電子表決システムを採用するとともに、オンライン形式の委員会開催に対応できるよう、条例を改正した。」と述べた。楠さんは「特に意識したわけではない」（楠さん）という。もちろん、それ自体が目的ではないが、結果に数字が付きってきたということだろう。

もちろん、西条市議会は、歩みを止めたわけではない。行元博議長（71）はこれからの市議会の課題について、①政策提言会を生かす、議員提案の政策条例を制定すること、②議員間討議の活発化、③議会事務局の時間外勤務の見直しのさらなる推進、の3点を挙げている。

前述した、地元学校との交流もそのひとつだ。今夏から市内にある高校との交流を始め、生徒との対話のほか、生徒が育てた菊花の展示会などを行った。若い世代に対する主権者教育の一環と位置づけている。

「追いつき、追いこせ」を地で行く形で進んだ西条市議会の挑戦は、これからも続く。次回は、四国でやはり異彩を放っている、徳島県那賀町議会を中心に紹介したい。



議場コンサートで地元中学校との交流も。(2021年10月19日撮影、西条市議会事務局提供)